ＡＣ学級研究部会

１　ＡＣ学級の研究について
２　年間計画
３　ＡＣ学級の日課表
４　ＡＣ学級の自立活動について
５　自立活動学習指導案（高等部Ａ学級）
６　自立活動題材例
　　（小学部Ａ学級、中学部Ａ学級、高等部Ｃ学級）
７　まとめと今後の課題
資料　コミュニケーション実態表

1　ＡＣ学級（重複学級・訪問学級を以下 AC 学級と表記する）の研究について

研究テーマ：「児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業」

（１）研究のねらい　～３つの柱～

①個々の表出について共通理解し、気付き、受け止め、言葉や動作で返していく。

・一人の子どもに対してかかわる教師、看護師、介助員間で表出について、共通理解を図れるようなコミュニケーション実態表を作成し検討する。

・表出について気付き、受け止めることでコミュニケーションを図り、言葉や動作で返すことによって、また次に発信しようと思えるようなかかわりをする。

②児童生徒の興味関心を引き出し、自分から表出できる機会を増やす。

・児童生徒の引き継ぎ資料などを基に実態を確認し、さらに新しいことに挑戦することで児童生徒の「やりたい」「やりたくない」などの気持ちを引き出す。

・個々の興味関心を授業づくりの中に生かし、主体的に取り組めるような機会を設定する。

③コミュニケーションをとる対象を友達や担任以外の教師に広げ、やりとりをする。

・普段からコミュニケーションをとる学級内のかかわりだけではなく、同じ学部のＡ学級同士、Ｂ学級との交流などからやりとりをする対象を広げるようにする。

・かかわることの少ない人と同じ活動をしたり、自分の意思を相手に表出したりすることで、児童生徒がよりかかわりたいという気持ちを高め、コミュニケーション能力や QOL（生活の質）の向上につなげる。

（２）研究の進め方

①記入した実態表を職員間で見合い、各項目の加除訂正をする。その後、児童生徒のコミュニケーション面について職員間で共通理解を図り、活用の仕方を検討する。

②各学部が１回ずつ授業研究を実施し、その中の１回を全校研究会とする。

③授業を見る際は、研究のねらいの３つの柱を意識して児童生徒と教師とのかかわり方について検討する。

④研究会の協議内容や講師の指導を受けて、授業で改善したいところや児童生徒の変容について振り返り研究を深める。

⑤１年間の研究内容について実践報告を行い、以下を実践報告集に記載する。

・授業研究の学習指導案
・題材例
・コミュニケーション実態表

2　年間計画

（１）授業研究会の日程

７月１４日（木）	小学部	部内研究会	講師招聘
９月２１日（水）	中学部	部内研究会	
９月２６日（月）	訪問学級（高等部）	部内研究会	
10月２４日（月）	高等部	全校研究会	講師招聘

（２）講師について

保科　靖宏先生（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事）

3　ＡＣ学級の日課表

小学部Ａ学級

	月	火	水	木	金
9:00	自立活動　せいかつ（着替え・排泄・朝の会）・からだ・かだい・係活動				
10:25	自立活動　からだ・あそび・かだい			生活単元学習（行事に向けて）	
11:55	自立活動　せいかつ（排泄・食事・歯磨き）				
13:20	自立活動　からだ・あそび・かだい				
13:45	自立活動．せいかつ（着替え・帰りの会）				

中学部Ａ学級

	月	火	水	木	金
9:00	自立活動：生活（着替え・排泄・水分補給）／身体／課題				
10:25	自立活動　生活（朝の会）				
11:00	作業学習		自立活動　身体／課題	生活単元学習	自立活動　身体／課題
12:00	自立活動　生活（排泄・食事・歯磨き）				
13:00	自立活動　身体／課題		音　楽	自立活動　身体／課題	
13:50	自立活動（着替え・排泄・帰りの会等）				

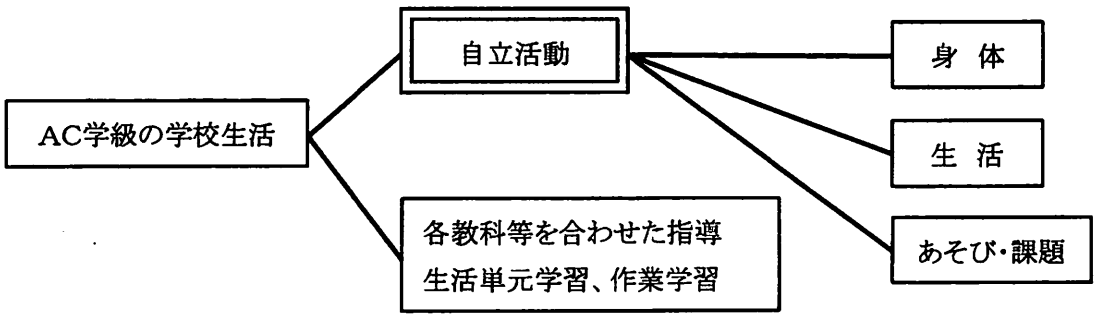
高等部Ａ学級

	月	火	水	木	金
9:00	自立活動：生活（着替え・排泄・水分補給）／身体／課題（個別学習）				
9:25	自立活動　生活（朝の会）				
10:25	自立活動　身体／課題				
11:15	作業学習			自立活動　身体／課題	
12:05	自立活動　生活（食事）				
13:00	自立活動　生活（歯磨き・排泄）／課題／身体			選択教科	自立活動 生活、課題、身体 / 特別活動
14:00	自立活動　生活（着替え・帰りの会等）				

Ｃ学級（小学部・高等部）

	月	火	水	木	金
10:00 ～ 12:00	自立活動（高）			自立活動（高）	自立活動（高）
15:00 ～ 17:00	自立活動（小）		自立活動（小）		自立活動（小）

4　ＡＣ学級の自立活動について



自 立 活 動		
①健康の保持　②心理的な安定　③人間関係の形成　④環境の把握　⑤身体の動き　⑥コミュニケーション		
1　身体　※	**2　生活　※**	**3　あそび・課題　※**
○からだの学習 ○自立活動担当による時間における指導（抽出指導） ○日常生活の中での動きや移動 など	○朝の会、帰りの会 ○係活動 ○排泄 ○着替え ○水分摂取、食事（摂食指導） など	○遊具あそび ○感触あそび・制作活動 ○歌あそび・音楽活動 ○光あそび ○本の読み聞かせ など
・日常生活に必要な基本的な姿勢や移動・運動動作を身につけられるようにする。 ・車椅子、座位保持椅子、歩行器、補装具、クッション等の補助的手段を活用し、よい姿勢を保つことやスムーズな動作を身につけられるように支援する。 ・力を抜いてリラックスできる姿勢や動きを身につけ、関節や筋肉の拘縮や変形を予防し、呼吸をはじめ内臓の働きを助ける。 ・学習（作業）に必要な姿勢や手足の動きづくりを目指す。	・生活に見通しを持って、身の回りのことをできる範囲で自分から行おうとする気持ちを育てる。 ・生活リズムや衛生意識を育て、健康的な生活ができるようにする。 ・あいさつや返事、はい・いいえ等の自分の気持ちを相手に伝える力を伸ばす。 ・一人一人の発達段階に応じて、食べる・飲む力を育て、おいしく楽しく安全に食べられるように支援する。 ・食事面ではスプーン・皿などの食具や支援の仕方を工夫し、自分で食べる力や意欲を育てる。 	・見る、聞く、触る、揺れるなどの基礎的な感覚を味わい、いろいろな刺激を受け入れたり楽しんだりする力を育てる。 ・好きな活動やできる活動を通して、選んだり、伝えたりする力を育てる。 ・個別学習では、一人一人に応じた教材や課題を通して、安心して人や物とかかわる力を育てる。 ・集団学習を通して、友達と触れ合ったり、かかわったりすることを楽しむ力を育て、自分から人とかかわろうとする意欲を育てる。また、大勢での活動に慣れ、見通しを持って参加できる力を育む。

※学習指導要領における自立活動の 6 領域をAC学級で検討し、独自に3つの学習に振り分けた。これらは独立したものではなく相互に関連している。

5　自立活動学習指導案

高等部重複学級１・２組（Ａグループ）　自立活動（課題学習）学習指導案

日　　時　　平成２８年１０月２４日（月）
　　１０時４０分～１１時３０分
授業場所　　高等部重複１組教室
授 業 者　　Ｔ１、Ｔ２、Ｔ３

１　題材名　「相手に自分の気持ちを伝えよう」

２　学習集団について

今年度の高等部重複学級は１組４名（１年生男子１名、２年生男子３名）、２組５名（１年生男子１名、女子１名、２年生男子２名、女子１名）の計９名で構成されている。その中でコミュニケーション能力別の２グループに分かれて課題学習に取り組んでいる。本グループは１年生男子１名、２年生男子３名、女子１名の計５名で構成されている。

コミュニケーション面では、言葉で表現できる生徒が１名、発語はあるが不明瞭なため、５０音表やサインで表現する生徒が１名、日常生活でよく使われている言葉や表情で表現できる生徒が１名、時間はかかるが単語で要求を伝えたり、表情や身体の動き等で表現したりすることができる生徒が２名いる。初対面の人や人前で話すことに抵抗があったり、友達同士との関わりが難しかったりするが、教師を介することで様々な人と会話できたり、友達と楽しそうに笑ってかかわったりしている場面も見られる。基本的に人と関わることや会話をすることが好きな生徒達である。

身体面は、全員に麻痺があるため座位保持が難しく、座位保持椅子やカットテーブル、車椅子等を使い学習に取り組んでいる。手の操作面については、本人の意思通りに手や指を動かすことが難しい生徒や鉛筆で字を書いたり、ビーズ通しなどの細かい操作ができたりする生徒等、実態の幅は広い。

視覚面では、全員が注視や追視ができ、見比べて選択することができている。聴覚面では、突然の音に過敏に反応し、筋緊張が強まる生徒もいる。

３　題材について

今年度、日常生活の中の朝の準備や朝の会、帰りの会などの活動を通して、自分の気持ちを表出する機会を多く設けてきた。朝の準備では、「お茶とアクエリアスどっちがいい？」と質問したり、朝の会では献立の内容に対してどう感じたかを問いかけたりして、生徒とやりとりを積み重ねてきた。最初は自ら表出することが難しく、教師の言葉がけに対してうなずくことが多かったが、少しずつ「お茶」などと声の表出が見られるようになってきた。そのため、教師が生徒の気持ちをより一層わかるようになり、生徒の思いや要求に応えられるようになった。また、献立の内容を確認した際、どの献立の内容でも笑顔を見せることがほとんどだった生徒が、舌を出して「きらい」と気持ちを表出するようにもなった。まだ自ら気持ちを表出することは難しいが、少しずつ表出する場面は増えてきている。

そこで本題材では、自ら相手に自分の気持ちを伝えてほしいという思いから、実際に今後の学校生活

や社会に出た際、起こり得る場面をいくつか想定して取り組み、生徒の表出を引き出せないかと考えた。本題材はA、Bグループの二つに分かれて取り組んでいる。Aグループの生徒は、確実ではないが、言葉や身振りで自分の気持ちをおおよそ伝えることができている。Bグループの生徒は、慣れた教師との関係の時には表出があり、くみ取ることができる状態である。そのため、Aグループは、卒業後を意識して日常生活の中で繰り返し使うであろう言葉を具体的に取り上げ学習していく。Bグループは、生徒の興味関心の高いものを題材とし、生徒が表出しやすい環境を作り、自分の思いをできるだけ多く表出できる学習をしていく。

最初の授業は、自分の気持ちが伝わると嬉しい気持ちになる、伝わらないと悲しい気持ちになることを全員で共有し、「自分の気持ちを人に伝えることは大切なことだ」ということを学習する。それ以降は、毎回場面を変えて、その場に応じた気持ちの伝え方を学習していく。まとめの時間には、今まで取り組んできた場面からいくつか選び、再び実際にやってみる。そこでどこまで身に付いているかを評価し、成長をしっかりと認め、称賛していく。毎回、授業の最後には一人一人自分の頑張ったところを発表する。その後、「今日の頑張った人」を生徒に選んでもらい、選ばれた生徒はみんなの前で感想や自分の気持ちを発表する。やりとりの学習は、対教師をメインとしているが、友達の様子を意識したり、感想を聞いたりすることで、友達同士のかかわりにもつなげていきたい。

これらの活動を通して、自分の気持ちが伝わることの大切さや喜びを感じ、積極的に表出できるようになってほしい。教師は生徒からの表出に気付き、称賛できるようにしていくことで、「自分の要求や思いを伝えたい、より表出、表現したい」という気持ちを引き出していきたい。卒業後、様々な人と関わっていく場面がたくさんあると考えられるため、どの人に対しても自分の気持ちを伝えられる力を身に付け、選択肢がなくてもその場に応じた自分の気持ちを伝えられるようになってほしい。

4　題材の目標

・教師や友達に自分の気持ちを言葉や身振りで伝えることができる。（思考・判断・表現）

・活動を通して、自分や友達の良かったところ、頑張っていたところを伝えることができる。（関心・意欲・態度）

5　指導計画（６／１１時間）

月日	学習内容
９／２１（水）	・導入「自分の気持ちを人に伝えることは大切なことだ」
９／２６（月）	・トイレに行きたい時どうする？
１０／６（木）	・頭が痛い時どうする？
１０／１３（木）	・困った時どうする？
１０／２０（木）	・「まずい」と思った時どうする？
１０／２４（月）●本時	・おかわりが欲しい時どうする
１０／３１（月）	・寒い時どうする？
１１／７（月）	・嫌なことをされた時どうする？
１１／２１（月）	・この場面の時はどのような気持ちになる？
１１／２８（月）	・「ありがとう」を言おう
１２／５（月）	・まとめ「全ての場面を振り返って、実際にやってみよう。」

6　本時の指導

（1）　本時の目標

・教師や友達に自分の気持ちを自分の表出方法で伝えることができる。

・「今日の頑張った人」の発表の時に、自分の良かったところ、頑張っていたところを選択肢の中から選び、伝えることができる。

（2）　展開

時配	生徒の活動	支援上の留意点	教材等
4	○はじめのあいさつをする。 ・生徒が前に出て、あいさつを行う。	・教師、生徒同士が顔を見合わせるように、半円状に座る。 ・はじめのあいさつは、輪番で行う。 ・生徒の様子に応じて、「これから」「気持ちを」「伝えようの」「授業を」「はじめます」と言葉で支援する。(T1)	
	○今日の学習内容を知る。 ・活動内容が提示されたテレビに注目する。	・テレビに注目するように言葉をかけたり、指をさしたり、クッションを調整したりして、顔を向けやすいように支援する。(T2、T3) ・本時の活動について伝わるように、テレビ画面で絵や写真を提示する。(T1)	・テレビ ・パソコン
5	○前回の「まずいと思った時どうする？」の振り返りをする ・上記の場面の動画を見る。 Q「この時何を言えば良かったか覚えている？」 ・覚えている生徒は発表する。 ・誰も覚えていない場合は、正しい伝え方をしている動画を見て復習する。	・テレビに注目するように言葉をかけたり、指をさしたり、クッションを調整したりして、顔を向けやすいように支援する。(T2、T3) ・「覚えている？なんだったっけ？」などの言葉をかけ、振り返りを促す。(T2、T3) ・発表した生徒を称賛する。(T1～T3)	・テレビ ・タブレットパソコン ・パソコン
１０	「おかわりが欲しい時どうする？」 ○選択肢から選ぼう ・上記の場面の動画を見る。 ・３つの選択肢の動画を見る。	・テレビに注目するように言葉をかけたり、指をさしたり、クッションを調整したりして、顔を向けやすいように支援する。(T2、T3) ・選択肢の動画は、選択肢の動画①②③で出てくる教師を替える。	・テレビ ・タブレットパソコン ・パソコン

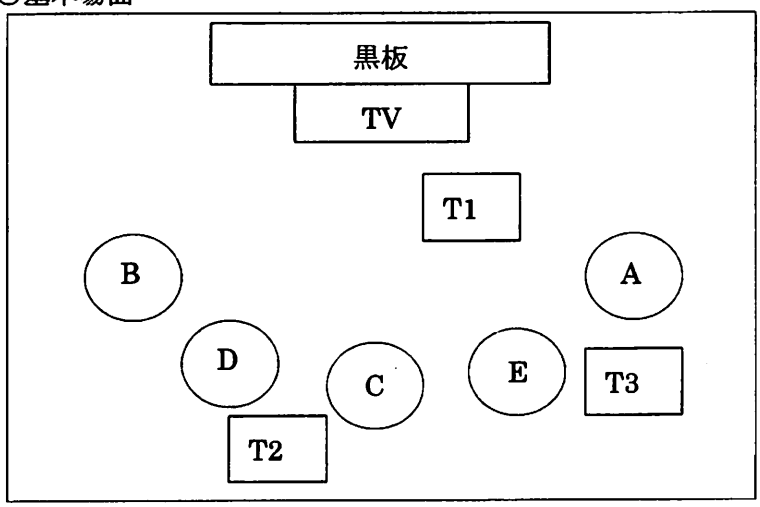
	・３つの選択肢から教師と相談し、どれにするか選ぶ。 ＜選択肢＞ ①「おかわりください」を言う。 ②人のものを勝手に飲む。 ③我慢する。 A.B.D はテレビで選ぶ。 C.E はタブレットパソコンで選ぶ。 ・T1 が一斉に聞いた際、選んだ選択肢に手を挙げるまたは声に出して発表する。 ・正解の動画を見て、正しい伝え方を再確認する。	・区別がつきやすいように①②③の選択肢の色を変える。 ・A.B は T1 と、C.D は T2 と、E は T3 と選ぶ。 ・言葉の表出が難しい場合もあるので、表情や身体の動きにも気を配る。(T1～T3) ・生徒の表出に対し、言葉で返し、気持ちが伝わっていることを伝える。(T1～T3) ・表出することを急かさず、生徒に応じて言葉の支援をしたり、待ったりする。(T1～T3) ・表出が苦手な C、E の生徒には、選べたことに対し称賛する。(T1～T3) ・手を挙げるまたは声を出して発表できていない場合は、T1 は気付かない形をとり、T2、T3 がその生徒に言葉がけをして手を挙げるまたは声を出すように促す。(T2、T3)	
6	○練習しよう ・教師の手本を見る。 ・その場で教師と一緒に正しい伝え方の練習をする。	・実際にこの後行うシチュエーションで手本を示す。(T1) ・生徒の表出に対し、「伝わったよ。それならおかわりもらえるよ。」などの言葉をかけ、生徒の気持ちが伝わっていることを伝える。(T1～T3) ・表出することを急かさず、生徒に応じて言葉の支援をしたり、待ったりする。	・コップ
１２	○実際にやってみよう ・みんなで乾杯して飲む。 ・自ら「おかわりください」と教師に伝える。 ・おかわりのジュースを飲む。	・すぐ飲み切れる量のジュースコップに入れる。(T1) ・あらかじめおかわりは１杯ずつあることを伝えておく。(T1～T3) ・「おかわりいる？いらない？」などの質問はせずに、生徒から伝えてくることを待つ。(T1～T3) ・生徒が伝えたことを気付けるように近くにいる。(T1～T3) ・誰も「おかわりください」と伝えてこない時は、教師が「おかわりください」と	・コップ ・ジュース

	・おかわりをしていない生徒には理由を聞き、「飲む？飲まない？」の質問に答える。 ・「飲む」と答えた生徒は、その場で正しい伝え方を少し練習する。 ・おかわりをした生徒、「飲まない」と答えた生徒は、教師と今の場面のことについて話をする。	言い、伝えやすい雰囲気を作る。(T2、T3) ・「おかわり言えたからあげる」などの言葉で、大げさに「おかわり」を言えたことに対して称賛する。(T1～T3) ・改めて「飲む？飲まない？」と聞く。(T1～T3) ・「飲む」と伝えてきた生徒には、「飲みたい気持ちがあったのなら、さっきのおかわりもらえる時に言わないといけないよ」と説明する。(T1～T3) ・「おかわり良かったね」や「お腹いっぱいだった？」などのやりとりをし、生徒の気持ちを引き出す。	
5	○「おかわりが欲しい時どうする？」のまとめ ・「おかわり」を伝えることができなかったら、喉が渇いて倒れる動画を見る。 ・自分の気持ちを伝えることの大切さを知る。	・言葉をかけるなどして、教師に顔を向けるように支援する。(T2、T3) ・倒れる役の人がわかるように、大げさに演じる。	・テレビ ・タブレットパソコン ・パソコン
7	○「今日の頑張った人」の発表 ・一人一人、何を頑張ったかを発表する。 ・教師から指名された人は、「今日の頑張った人」を選ぶ。 ・選ぶ人は、できるだけ名前を呼んで教師に伝える。 ・選んだ人は、どんなところが良かったかの理由を言う。 ・「今日の頑張った人」に選ばれた生徒は、前に出て感想を発表する。	・テレビやタブレットパソコンに、今日の活動の写真を用意する。 ・「今日の頑張った人」を選ぶ人をテレビに映し出し、生徒に伝える。(T1) ・テレビやタブレットパソコンに生徒の顔写真を映し出し、「今日の頑張った人」を選びやすいようにする。 ・「今日の頑張った人」に選ばれた生徒の隣に着き、生徒に応じた支援をする。(T1) ・言葉で感想を発表することが難しい生徒は、テレビまたはタブレットパソコンに映し出された感情の画像から選択して、自分の気持ちを発表できるようにする。 ・感想発表後は、感想の内容や表出の仕方	・テレビ ・タブレットパソコン ・パソコン

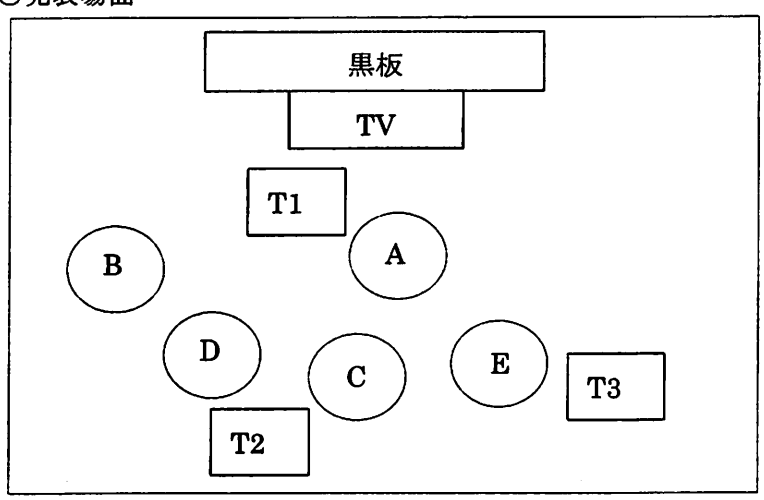
		について称賛する。(T1～T3)	
1	○おわりのあいさつをする。 ・はじめのあいさつをした生徒が行う。	・生徒の様子に応じて、「これで」「気持ちを」「伝えようの」「授業を」「終わります」と言葉で支援する。(T1)	

（3） 配置図

○基本場面



○発表場面



（4） 評価

・教師や友達に自分の気持ちを自分の表出方法で伝えることができたか。

・「今日の頑張った人」の発表の時に、自分の良かったところ、頑張っていたところを選択肢の中から選び、伝えることができたか。

7　本時までの様子、目標、手立て

	本時までの様子	目標	手立て
A	・言葉で伝えようとするが、発音が不明瞭なため伝わりにくい。しかし、一語一語ゆっくり話すと、伝わることもある。 ・５０音表や身振りで自分の気持ちを伝えることができる。 ・友達の様子を見て、良いところを言える時もある。	・言葉や身振りで自分の気持ちを教師や友達に伝えることができる。 ・自分や友達の良いところ、頑張ったところを、選択肢の中から選ぶまたは５０音表で伝えることができる。	・教師が手本を見せ、伝わりやすい身振りを教える。 ・発音が不明瞭なので、５０音表を用意する。
B	・言葉で自分の気持ちを伝えることができる。 ・１１時過ぎに登校することが多く、授業にあまり参加できていない。	・場面に応じた言葉で自分の気持ちを伝え、教師に依頼することができる。 ・自分や友達の良いところ、頑張ったところを伝えることができる。	・質問をするなどして、設定した場面の理解を促し、自分の気持ちを伝えやすい環境を作る。 ・文章形成の様式をテレビ画面に映し出す。
C	・皆の前で教師が質問すると、答えることが恥ずかしく、慣れた教師に甘えてくることがある。 ・友達の様子を見て、良いところを言うことはまだ難しいが、自分が頑張ったということを言える。	・言葉で自分の気持ちを教師に伝えることができる。 ・自分が何を頑張ったか選ぶことができる。	・教師とその場で練習する時に、称賛し、自信をつける。 ・タブレットパソコンに活動内容の写真を映し出し、選択肢を用意する。 ・慣れた教師に甘えてきた場合は、普段かかわりの少ない教師が替わる。
D	・自分の意見や考えを持っているが、それを教師にしたい、して欲しいと伝えられずためらうことが多い。 ・教師からの問いかけに対し会話はできるが、自ら自分の気持ちを伝えることはあまりない。	・言葉で自分の気持ちを教師や友達に伝えることができる。 ・授業の最後に自分の良かったところ、頑張ったところを言うことができる。	・麻痺があり、発声のタイミングやきっかけがつかみにくい時には、言葉をかけ促す。 ・伝えたい言葉が単語で切れてしまうことが多いので、文になるように助詞を言い、支援する。

E	・発声や手指を動かすなど、自分なりの方法で気持ちを伝えることができるが、発音が不明瞭であったり微かな動きであったりするために伝わりにくい時がある。	・言葉で自分の気持ちを伝えることができる。	・短く、端的に質問したり、言葉をかけたりすることで自分の気持ちを伝えやすくする。
	・友達が発表する様子などをよく見ており、名前を呼んだり、声をかけたりすることがある。	・友達の良いところや、自分の頑張ったところを選択肢の中から選ぶことができる。	・いくつかの選択肢を用意し、さらに教師がわかりやすく説明をしながら選択できるようにする。

8　自立活動と目標との関連性

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		・状況の理解と変化への対応に関すること	・他者とのかかわりの基礎に関すること ・自己の理解と行動の調整に関すること	・保有する感覚の活用に関すること ・感覚の補助及び代行手段の活用に関すること		・コミュニケーションの基礎的能力に関すること

具体的な指導内容	・教師や友達に自分の気持ちを自分の表出方法で伝えることができる。	・「今日の頑張った人」の発表の時に、自分の良かったところ、頑張っていたところを選択肢の中から選び、伝えることができる。

コミュニケーション実態表

（記入日）　28年　10月　24日
（記入者）　T1

学部・学年	高等部　1年	氏名	C	性別	男
生年月日	○年　○月○日（16歳）	疾病名及び障害名	てんかん、小児麻痺		
移動手段	自力歩行、支持歩行				

区分	領域	項目		チェック項目	特記事項
身体面	姿勢	麻痺		☑ある　（全身・右側・[左側]・下肢） □ない	（麻痺） 左半身の筋力、指先の操作性が低い。 （学習時の姿勢） 椅子に座っている時は、猫背で前のめりになっていることが多い。また、左側に傾いていく傾向がある。 （移動手段） 自力歩行は可能だが、基本的に教師と手をつないで歩いていることが多い。自力歩行だと大股で歩き、不安定である。
		首のすわり		☑ある　□ない	
		学習時の姿勢		□側臥位　□腹臥位　□仰臥位 □立位　☑座位 □その他（　　）	
		緊張		□低　☑普通　□強	
		体位変換		☑できる　□部分介助　□全介助	
		移動運動		□要介助　□寝返り　□ずりばい □四つばい　□立ち上がり　□膝立ち ☑支持歩行　☑自力歩行 □その他（　　）	
		側わん		□ある（　右凸　・　左凸　） ☑ない	
	視覚	視力		☑ある　□眼鏡使用 □ない　□不明	（注視、追視） 目で追うことはできるが、視野は狭く、素早い動きにはついていくことが難しいように感じられる。
		明暗の区別		☑ある □ない　□不明	
		色覚		☑異常なし　□異常の疑い □不明	
		注視		☑できる（見やすい距離　0．5m） □できない	
		追視		☑できる（見やすい距離　0．5m） □できない	
	聴覚	聴力	状態	☑異常なし　□不明 □異常の疑い　□補聴器使用 （聴きやすい距離　1～3m）	
			左右差	□ある（右・左）　□不明 ☑ない	
		音に対する反応		☑ある　（敏感・[普通]・鈍感） □ない	
認知・コミュニケーション	表出／受信　視知覚・聴知覚	手の操作性	☑できる □できない □不明	☑触れる　☑握る　☑掴む　☑離す ☑指さし　☑手差し　☑持ち替え	（手の操作性） 物を取る時やご飯を食べる時など基本的には右手のみで行う。左手はお茶碗を持つ時以外はほとんど使わない。左手の近くに物があっても右手で取る。 （形、色の弁別） 形と色の分別はできるが、「赤はどれ？」「三角はどれ？」など教師が指示したものを選択することができないことがある。
		形の弁別	☑できる □できない □不明	☑丸　☑三角　☑四角 □その他（　　）	
		色の弁別	☑できる □できない □不明	☑赤　☑青　☑黄　☑白　☑黒 □その他（　　）	
		単語理解	☑わかる □わからない □不明	（日常でよく使用する単語）	
		身近な人の理解	☑わかる □わからない □不明	☑実物　☑声　☑写真 □その他（　　）	

認知・コミュニケーション	表出／受信	視知覚・聴知覚	身体の部位の理解	☑わかる □わからない □不明	☑上半身（　　） ☑下半身（　　）	(指示理解) 生徒自身がよく使う物や聞き慣れた物だと、言葉の指示だけで理解できる。
			指示理解	☑わかる □わからない □不明	☑実物 ☑具体物 ☑写真カード ☑絵カード □文字 ☑音声 ☑指さし □サイン □その他（　）	
			文字理解	□読める ☑読めない □不明	□平仮名 □片仮名 □漢字 □数字 □その他（　　）	
				□書ける ☑書けない □不明	□平仮名 □片仮名 □漢字 □数字 □その他（　　）	
			数的要素	☑ある □ない □不明	□数唱 □数と物の対応 □長・短 □大・小 □多・少 □重い・軽い □時刻 ☑前後上下左右 □その他（　　）	
	表出／受信		発声		☑ある □ない	(発語) 本人がよく使う言葉や自発的に出た言葉は明瞭だが、普段使わない言葉だと不明瞭である。
			発語		☑ある（　個程度）明瞭・不明瞭 □ない	
			視線		☑目が合う ☑指したところを見る ☑指示したところを見る	
			サイン		□できる（身振り動作 ・ マカトンサイン） ☑できない	
					□わかる □わからない ☑不明	
			選択		☑実物 ☑具体物 ☑写真 ☑絵 □文字 ☑発語 □その他（　　）	(選択) ３個ぐらいの中からだと選択できるが、多くの選択肢から選択することは難しい。
			要求表現		☑表情 ☑視線 ☑動作 ☑発声 ☑発語 □その他（　　）	(要求表現) 「やって」「おいで」など要求することは多く見られる。今は「やってください」などの丁寧な言葉遣いを練習中である。
			快・不快の表出		☑表情 ☑視線 ☑動作 ☑発声 ☑発語 □その他（　　）	
			ＹＥＳの表出		☑表情 ☑視線 ☑動作 ☑発声 ☑発語 □その他（　　）	
			ＮＯの表出		☑表情 ☑視線 ☑動作 ☑発声 ☑発語 □その他（　　）	
			情緒		☑安定 □不安定	
社会性	人とのかかわり		身近な人への対応		☑見る ☑目で追う ☑目を合わせる ☑笑顔 □緊張 □不快・不安	(身近、初めての人への対応) 恥ずかしいことがあると、身近な人には甘えることがある。初対面の人には緊張して顔をそむけることがある。
			初めての人への対応		□変わりなし □目を合わせる ☑緊張 ☑不快・不安 □その他（　　）	
			集団への対応		☑変わりなし □緊張 □不安・不快 □その他（　　）	(集団への対応) 集団の場で発表となると緊張する。
			他者との協調性		☑ある □ない □不明	(他者との協調性、ルール理解) 「一緒にやろう」と友達を誘って活動に取り組んだり、順番を守ったりすることができる。 T スロー、ブロックの積み上げなどのゲームはできる。
			ルール理解		☑ある □ない □不明	
			興味の有無		☑ある □ない □不明	
			活動への意欲の有無		☑ある □ない □不明	

１０　生徒の変容について

学部	高等部	対象グループ	重複学級	講師	保科靖宏先生
授業実施日	１０月２４日（月）	記録日	１２月７日（水）	記録者	T1
授業内容	相手に自分の気持ちを伝えよう				

授業時の課題　※課題が複数ある場合は①、②など箇条書きで記載し、以下対応

①生徒に対する教師の話し方や説明の仕方

②C さんへの支援の仕方

③教材教具の見せ方や教師と生徒の配置

助言内容　※講師助言：講　参加者助言：参

講：C さんの理解の仕方の概念が他の生徒とは違うので、C さんにあった支援の仕方が必要である。

講参：生徒に対する教師の言葉を選んだほうが良い。もう少し言葉を精選する必要がある。

参：TV を見る時、友達同士でかかわる時など状況に合わせて配置転換すると、よりスムーズかつ効率的に授業が進んでいく。

参：MT と ST の連携を高めていく。

参：生徒が VOCA などで教師にアプローチをかけ、教師が近づいてきてから自分の気持ちを伝える方がスムーズに表出できるだろう。

改善点　※上記の課題と対応させる

①生徒に対する言葉遣いに気をつけ、丁寧な言葉で話す。また、端的に伝わりやすい言葉で説明する。

②C さんに対しては、顔写真選択から３人の教師が A、B、C の役を目の前で行い、選択する方法に変更する。

③・テレビ画面で３つの選択肢を一斉に提示する場合、縦書き３つの答えから横書き３つの答えに変更する。

・生徒の配置は指導案上のままにし、E さんの左側に T2 を配置し、C さんの右側に T3 を配置する。

変容　※改善点と対応させる

①ゆっくり端的に話すことで、教師やテレビに視線を向ける機会が増えた。教師の中で称賛の仕方を統一し、ジェスチャーを入れながら「○」や「いいね」を伝えたことで、生徒にも伝わりやすかった。

②正解を選ぶとは限らないが、決まった教師ばかりを選ぶということは無くなった。

③・目立った変容はなかったが、縦書き３つの答えだと順序を間違えることがあるかもしれないと考えられた。

・E さんの左側に教師を配置したことで E さんの表出が増えた。また、E さんがスムーズに言葉を出すようになった。C さんの右側に T3 を配置したことで、照れ隠しで腕を掴むなどの行動がなくなり、授業に集中して取り組むようになった。

≪今後の課題≫

・普段あまりかかわりがない人でもわかるような、個々に合った表出方法を身に付けられるようにする。

・日常の活動から表出する機会を多く設けたり、生徒の表出方法を把握したりしていく必要がある。

・普段から表出できる生徒が、なかなか表出できない時にどのようにアプローチしていくか、また何が原因で表出しにくいのかを追究していく。

・人に「自分の気持ちを伝えたい」と思えるような動機づけをする。

≪指導の重点≫

・生徒の表出を教師が読み取ろうとしすぎるのではなく、あえて気付かないふりなどをして、いつもと違う表出の機会を作る。生徒の表出の幅を広げていく。

6　自立活動題材例

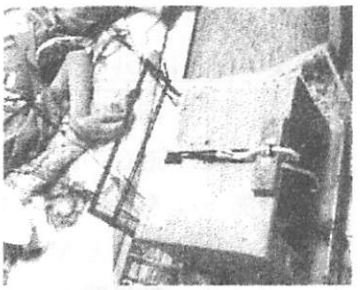
題材名	遊具で遊ぼう　～にじいろランドで遊ぼう～
目　標	・遊具で遊びたい（やりたくない）気持ちを手と目の動きや発声で、遊具の近くにいる教師に表現することができる。（思考・判断・表現） ・自分が遊びたい遊具を自分なりの方法で選択することができる。（関心・意欲・態度）
児童の集団、指導者	小学部　児童７名（男４名、女３名）、指導者５名

学習の進め方（⇒はその後の変容、□の中は今後の課題）	資　料
1　はじめのあいさつをする。 2　今日の学習内容を知る。 ①にじいろランドにある遊具を知る。 ・遊ぶ遊具がわかるように、目の前に提示したり触れたりする。 ②にじいろランドで遊ぶ際の約束を知る。 約束 ・１０数え終わるまで遊ぶことができる。 ・もう一度遊びたいときは近くの教師に「もう一回遊びたい」と伝える。 ・自分の順番が来るまで待つ。 ・順番を守れるようにホワイトボードに顔写真カードを提示する。 3　にじいろランドで遊ぶ。 ・自分が遊びたい遊具に自分から移動したり、手を動かしたりして選択する。（シーツブランコかボールプールの２択で選ぶ。） ・友達の遊んでいる様子が見える位置に、他の児童は移動する。 ⇒友達が遊んでいる様子を見て、顔を上げたり、声を出して笑ったりし、自分の順番が来るのをとても期待して待っている様子が見受けられた。 ・１０数え終わるまで遊び、「もう一回遊びたい。」「終わりにしたい。」などを近くの教師に伝える。 １０まで数えることをパターン化せずに、もっと必要だと思ったら、おまけを作っていく必要がある。 ⇒「もう１回遊ぶ？」「おしまいにする？」などの教師の言葉かけに対して、声を出したり、顔を上げたり、人差し指を立てて「もう１回」と身振り動作をしたりして自分の気持ちを表現することができた。 ・遊び終えたら教師が顔写真カードを外していく。 ⇒遊び終える度に写真カードを外していくことで、自分の順番がわかり、落ち着いて待つことができた。 集団の中でも個別に対応するのはよいが、児童同士のかかわりを設定していく必要がある。 4　わくわくタイム（振り返り）をする。 ・自分がもう一度遊びたい遊具を選択し１０数え終わるまで遊ぶ。 ⇒友達の様子を見ることで友達と同じ遊具を選ぶ児童が出てきた。 5　おわりのあいさつをする。	・ボールプール ・シーツブランコ ・顔写真カード ・ホワイトボード

題材名	「さつまいもを使って調理をしよう～切って、つぶして、まぜて」
目　標	・自分がやりたい活動を言葉や発声、身体の動きで表現し、教師に伝えることができる。（思考・判断・表現） ・教師や友達の活動の様子に視線を向けて見ることができる。（関心・意欲・態度）
生徒の集団、指導者	中学部　生徒６名（男４名、女２名）、指導者５名

学習の進め方（⇒はその後の変容、□の中は今後の課題）	資　料
○　さつまいもの調理をする。＜１回目＞ ・さつまいもについて触れたり匂いをかいだりして知る。 ・さつまいもの調理（切る、つぶす、まぜる）の見本を見て、自分がやりたい活動を選び、教師に伝える。手や腕を動かし、活動したり友達の前で実演したりする。 ⇒興味関心を示した教材で、自分から手を伸ばしたり立ち上がったりして気持ちを表出することができた。 【研究協議会での意見を受けて】 ・提示した写真カードや具体物が、活動そのものとのつながりとして理解できるように提示の仕方や写真の撮り方を工夫する。 ・生徒の反応や表出を考え、見る時の距離や時間を配慮したりテーブルの物を整理したりする。 ・「友達同士のつながり」が集団学習にしては弱かったので、友達がつぶした物を混ぜるなどかかわりを持つ場面を設定する。 ○　さつまいもの調理をする。＜２回目＞ ・収穫したさつまいもを使って、お楽しみ会のデザートを作る。 ・さつまいもの調理（切る、つぶす、材料の量を計って入れる、まぜる）の手本を見て、自分がやりたい活動（グループ）を選び、教師に伝える。 ⇒使う調理器具を精選し、活動の動きを加えて提示することで、やりたい活動を選びやすくなった。 ・手や腕を動かし、活動する。友達と協力して行う。 ⇒小グループに分かれて友達と一緒に活動することで、協力する言葉をかけたり声を出して応援したりする場面が見られた。 ・感想を発表する。 今後は他の学習でも友達と一緒に活動する場を設定し、更に自分の気持ちを表出し、伝えることができる経験を積み重ねていくようにする。	・完成品カード ・さつまいも（蒸した物、切った物、つぶした物） ・活動のカード ・砂糖 ・牛乳 ・ナイフ ・マッシャー ・すりこぎ ・ボウル ・スプーン ・フォーク ・泡立て器 ・タイマー ・グリップ ・滑り止めシート ・皿 切る・つぶすグループ 入れる・まぜるグループ

題材名	とみよう祭に向けてたくさん製品を作ろう！
目　標	・疲れている時には、全身の力を抜いて、「休みますか？」の問いかけにうなずいて答えることができる。（思考・判断・表現）
生徒の集団、指導者	高等部Ｃ１組　生徒１名（男１名）、指導者１名

学習の進め方（⇒はその後の変容、□の中は今後の課題）	資　料
○本時で切断するラベンダーの目標本数を確認する。 ・前回の授業で切断した本数を基準に本数を言葉で伝えて、少し増やしたり、同じにしたりして目標の本数を決める。 ⇒最初に目標数のラベンダーをまとめて見せていたが、活動量の見通しがもてるように、活動中に残りのラベンダーが見えるようにした。 ○ラベンダーの切断 ・補助具付きのハサミを用意し、親指に紐を取り付けて親指を内側に曲げる動きや手首を内側に返す動き、肘の内旋で紐を引くことで切断できるようにする。 ⇒ハサミが動いてラベンダーを切っているところが本人から見えるように、傾斜をつけるようにした。ハサミを注視する時間が増えた。 ・脱力が見られたり、過度な筋緊張が見られたりするときには、「休みますか？」と問いかけて本人の意思を確認する。うなずいて答えることもあったが、休まずに指や腕を動かし続けることが多く見られる。 ⇒本人からの休みたいという気持ちはあまり無いように感じられた。体調を考慮して、５本切ったら１分間休憩をすることにした。すると５本切り終わるまでの時間はそれまでよりも短くなり、休憩もできたので結果的に切る本数が増えた。 目標に対して一生懸命取り組むという気持ちが強いことが感じられた。その気持ちと体調を考慮して活動に取り組まなければいけない。質問に対してうなずいて「はい」の気持ちを確認することはできるが、質問の理解度という点では不明な部分があるかもしれないので、聞き方も考える必要がある。 ⇒休憩時間中には緊張が入っていた部位に触れたり、スムーズに切ることができていることや力が入りすぎていることを言葉で伝えたりした。リラックスした状態でコミュニケーションを図る機会が増えたことで笑顔も見られた。 ・３０分間の作業時間の中で目標の本数を切り終わったら、「終わりにする」と「もっと切る」の選択肢からどちらかを選ぶ。「もっと切る」を選んで目標の本数以上を切ることができている。 ⇒作業学習を通して、主体性をもった取り組みになるようにコミュニケーションを意識することができるようになってきている。	 ・ラベンダー  ・補助具付きのハサミ

7　まとめと今後の課題

（1）今年度のまとめ

①講師指導（講師：千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事　保科靖宏先生）

≪指導案について≫

小学部	・題材の目標に【思考・判断・表現】という、観点が記載されて良い。
高等部	・視覚的配慮、興味関心の観点からICTを活用し、指導案からもそのことが読み取れた。 ・ただ自発的に表出するのではなく「おかわり」のように実践的な内容を扱っていた。これからもキャリアアップ※1につながる授業にしていくと良い。 ・あえて気付かないふりをして大きくはっきりとした表出を導こうとしていた。
共通	・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」との連携が大切になる。 ・進路や将来を見据えた題材になっていて良い。

≪授業の様子について≫

小学部	・指導案どおりに進めるだけでなく、想定外の動きをする子どもに対応できていた。 ・遊びの終わりがわかるように１０まで数えるとき、必要に応じておまけのようなものを付けると良い。 ・児童とMTとの距離を検討し、カード等の教材は見えていたのか考察が必要。 ・教員間の言葉がけがよく、安全面に配慮されていて、チームワークが良かった。
高等部	・社会性が育つよう、「ソーシャルスキル的な内容」を取り上げていて良い。 ・ICTの活用は注目しやすい教材の一つであり、内容定着にもつながる。 ・車椅子乗車時、クッション等を活用していたが、緊張が強くて顔が左下を向いてしまっている生徒がいた。見やすい姿勢はとれるのか確認が必要。 ・学習集団の形においては、生徒達の姿勢を調整し選択肢を意識しやすくしていた。 ・生徒にとって見やすい向きや聞きやすい向きを考慮し、支援するSTが生徒の右側か左側のどちらにいるべきか検討が必要。 ・MTの称賛の仕方が良い。生徒達がよく集中し、自分の気持ちを伝えようとしていた。 ・「おかわり」「人のものを取る」「我慢」といった主体的な項目立てをしていて良い。 ・卒業後の生活を想定しての授業になっていた。今後「○○をおかわり」のように二語文を狙うのも良いのではないか。
共通	・集団学習の中での個別対応は表出を引き出したり、読み取ったりするというねらいが意識できて良い。

≪コミュニケーション実態表について≫

・重複の子どもたちは耳から得る情報が多く、内言語が多い子がいる。聴覚面が実態表に少ないので「聴知覚」についてのチェックを増やしたほうが良い。

・「見やすい距離」や「聞きやすい距離」についての記述があるとコミュニケーションを取りやすくなるのではないか。

・他者との協調性の欄に「ルールが分かる」が入ると、他者とのかかわりに広がりが期待できると思われるので良い。

・「やり取り」には表出だけでなく受信も大切。ぜひそこにも着目し、その子の「理解力」について触れてほしい。
・授業だけでなくメンバーが変わる学年末の引継ぎにも活用し、適宜書き込みを入れ、データベースになるようにしていくと良い。

≪その他≫
・コミュニケーションとは相互関係であり、人的環境と物的環境を設定することが重要である。
・アクティブラーニング的な視点※2や卒業後を意識したトップダウン的な視点※3を持ち、授業を構成することが大切である。
・児童生徒各々のキャリアアップがカリキュラムマネジメント※4につながる。自己選択、表現する力、人とかかわることが好き、人に愛されるなどがキャリアアップにつながる。

②今年度の成果と課題

AC学級では今年度のテーマとして「児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業」を念頭に置き、以下の３つの柱で実践してきたことで成果と課題が明らかになった。

研究の3つの柱	成果	①	学習の中で、児童生徒が気持ちを表出する場面を設定して授業に取り組むことができた。目や身体の動き、発声があったときに表出として受け止め、言語化するとともに教師間ですぐに共有することができた。今年度作成した実態表を活用することで、学習集団の実態を職員間で共有することができた。その結果、職員間で言葉や動作でのかかわり方を同一方法で行うように意識することができた。
		②	小学部では大型遊具（トランポリンやボールプール等）、中学部では自分が育てた野菜を調理し、食べる意欲につながる学習、高等部では大型TVやタブレット等のICT機器を活用し、児童生徒の興味関心を引き出して表出ができる環境を設定することができた。授業の中で、表出を待つことを心がけ、言葉をかける場面を考えて、児童生徒とかかわることができた。教師に表出することができた際は、称賛するようにしたことで、自信となり、表出する機会が増えた。
		③	各学部共、コミュニケーションをとる対象を友達や担任以外の職員に広げることができるような単元や授業づくりに取り組むことができた。授業づくりをする上で実態表が役に立ち、自分の学級以外の児童生徒とかかわる中で、小さな表出に気付いたり支援方法を知ることができたりした。やりとりする対象を広げたことにより、今まで見られなかった表出が見られるようになった。
課題			・興味の幅や表出方法をどのように広げていくのかを検討し、「やりたい」「やりたくない」だけでなく「やってみたらできた」の経験を増やしていく。 ・授業づくりとして、ＭＴとＳＴの役割分担や支援の一貫性を持つために、言葉かけや動作を統一し、表出に対する評価の仕方等を事前に職員間で検討する時間を増やしていく。 ・友達同士がかかわることができる機会をさらに意識した授業づくりを考えていく必要がある。

（2） 4年間のまとめ

ＡＣ学級は「児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業」を４年間、３つの柱に沿って、研究を重ねてきた。年度毎に研究の柱から１つを「重点目標」に設定し、研究に取り組んだ。

年度	重点目標	ＡＣ学級の取り組み	成果	課題
H25	児童生徒の表出について共通理解を図る。	表出についての読み取りをかかわる職員で確認し、共通理解のもと言葉や動作で返すということを意識して取り組んだ。	児童生徒の動きや発声、不随的な動きを含めたものを表出として捉え、職員で共通理解をした。ビデオを活用し事例生徒の表出を検証することができた。	１つの課題を達成したら、条件や場面や人を変え、横の広がりを意識した授業づくりをする。
H26	コミュニケーションをとる対象を友達や担任以外の教師に増やし、やりとりをする機会をつくる。	やりとりする機会を意識的に増やした。横の広がりを意識して、今持っているコミュニケーションスキルを生かすようにしてきた。	表出に対し、言葉で返したり、身体に触れたりすることで、児童生徒に伝わり、次の表出への意欲づけとなることに気付くことができた。	児童生徒の興味関心や、より「伝えたい気持ち」や「もっとやりたい」という気持ちを引き出し、実現できるような授業づくりを目指す。
H27	児童生徒の興味関心を引き出し、自分から表出できる機会を増やす。	「やりたい」「やりたくない」等の気持ちを引き出す工夫を児童生徒に応じて行った。	期待が持てる活動に取り組み、興味関心が持てる教材を使用した。表出が難しい際はスイッチ等の補助具を使用した。	誰がどの児童生徒とかかわっても同じような支援や手立て、評価ができるような実態表を作成していく。
H28	個々の表出について共通理解し、気付き、受け止め、言葉や動作で返していく。	コミュニケーション実態表を作成・活用し、誰がどの児童生徒とかかわっても同一の支援や手立て、評価ができるようにした。	コミュニケーション実態表を活用し、学習集団の実態を職員間で共有した。その結果、職員間で言葉や動作でのかかわり方を同一方法で行うように意識することができた。	自発的な表出を引き出し、卒業後の生活を意識したキャリアアップにつながる授業づくりをしていく。

上記の表から、多くの成果を挙げることができた。今後の課題として**『自発的な表出を引き出し、卒業後の生活を意識した、キャリアアップにつながる授業づくり』**が挙げられた。

各学部共通して卒業後の豊かな社会生活を目指し、小・中学部はボトムアップの視点※5で日々の指導を積み重ね、高等部は卒業後を意識したトップダウンの視点で指導することが必要である。そのため、系統的な指導（縦のつながり）を意識して授業を計画・実施していくことが求められる。

◎AC学級の職員で5つの言葉を下記のように捉えた。

※1　キャリアアップ：卒業後の豊かな生活に向けて、より高い知識、技能、能力等を身につけること。

※2　アクティブラーニング的な視点：主体的・対話的で深い学びを実現できるように授業を取り組むこと。

※3　トップダウンの視点：卒業時までに育む力として必要性の高い力を優先して指導していくこと。

※4　カリキュラムマネジメント：授業、個別の指導計画、教育課程のＰＤＣＡサイクルを連結させること。

※5　ボトムアップの視点：個々の児童生徒の実態に応じた学習に取り組み、幅広い経験を積むこと。

資料

コミュニケーション実態表

(記入日)　年　月　日
(記入者)

★必要最低限のことを「特記事項」に記入する。

学部・学		氏名		性別	
生年月日		[illegible]			
移動手段		障害名			

区分	領域	項目		チェック項目	特記事項
身体面	姿勢	麻痺		□ある　(全身・右側・左側・下肢) □ない	(学習時の姿勢) 日々の学習時の姿勢を記入する。また、コミュニケーションが一番とれる姿勢もふれる。姿勢を保持する上で、配慮している点があれば記入する。
		首のすわり		□ある　□ない	
		学習時の姿勢		□側臥位　□腹臥位　□仰臥位 □立位　□座位 □その他（　　）	
		緊張		□低　□普通　□強	
		体位変換		□できる　□部分介助　□全介助	
		移動運動		□要介助　□寝返り　□ずりばい □四つばい　□立ち上がり　□膝立ち □支持歩行　□自力歩行 □その他（　　）	「視覚」と「聴覚」については検診の結果を踏まえて、日々の行動について記入する。
		側わん		□ある（　右凸　・　左凸　） □ない	
	視覚	視力		□ある　□眼鏡使用 □ない　□不明	
		明暗の区別		□ある □ない　□不明	
		色覚		□異常なし　□異常の疑い □不明	
		注視		□できる（見やすい距離　　m） □できない	
		追視		□できる（見やすい距離　　m） □できない	
	聴覚	聴力	状態	□異常なし　□不明 □異常の疑い　□補聴器使用 (聴きやすい距離　　m)	
			左右差	□ある（右・左）　□不明 □ない	
		音に対する反応		□ある　（敏感　・　普通　・　鈍感） □ない	
認知・コミュニケーション	表出／受信　視知覚・聴知覚	手の操作性	□できる □できない □不明	□触れる　□握る　□掴む　□離す □指さし　□手差し　□持ち替え	【認知・コミュニケーション】について未実施なものや条件が揃えばできるものには「不明」にチェックを付け、特記事項に様子や支援方法を記入する。
		形の弁別	□できる □できない □不明	□丸　□三角　□四角 □その他（　　）	
		色の弁別	□できる □できない □不明	□赤　□青　□黄　□白　□黒 □その他（　　）	
		単語理解	□わかる □わからない □不明	（　　）	
		身近な人の理解	□わかる □わからない □不明	□実物　□声　□写真 □その他（　　）	

認知・コミュニケーション	表出／受信	視知覚・聴知覚	身体の部位の理解	□わかる □わからない □不明	□上半身（　　） □下半身（　　）	
			指示理解	□わかる □わからない □不明	□実物 □具体物 □写真カード □絵カード □文字 □音声 □指さし □サイン □その他（　）	
			文字理解	□読める □読めない □不明	□平仮名 □片仮名 □漢字 □数字 □その他（　）	
				□書ける □書けない □不明	□平仮名 □片仮名 □漢字 □数字 □その他（　）	
			数的要素	□ある □ない □不明	□数唱 □数と物の対応 □長・短 □大・小 □多・少 □重い・軽い □時刻 □前後上下左右 □その他（　）	
	表出／受信		発声		□ある □ない	具体的な場面や表情や身体の動きの様子を踏まえて記入する。
			発語		□ある（　個程度）明瞭・不明瞭 □ない	
			視線		□目が合う □指したところを見る □指示したところを見る	
			サイン		□できる（身振り動作 ・ マカトンサイン） □できない	
					□わかる □わからない □不明	
			選択		□実物 □具体物 □写真 □絵 □文字 □発語 □その他（　）	
			要求表現		□表情 □視線 □動作 □発声 □発語 □その他（　）	
			快・不快の表出		□表情 □視線 □動作 □発声 □発語 □その他（　）	
			ＹＥＳの表出		□表情 □視線 □動作 □発声 □発語 □その他（　）	
			ＮＯの表出		□表情 □視線 □動作 □発声 □発語 □その他（　）	
			情緒		□安定 □不安定	
社会性	人とのかかわり		身近な人への対応		□見る □目で追う □目を合わせる □笑顔 □緊張 □不快・不安	（他者との協調性） 順番や譲り合い等がわかるのかを記入する。
			初めての人への対応		□変わりなし □目を合わせる □緊張 □不快・不安 □その他（　）	
			集団への対応		□変わりなし □緊張 □不安・不快 □その他（　）	
			他者との協調性		□ある □ない □不明	（ルール理解） ルールを理解している場面や様子を記入する。また、ルールがわかるゲーム名を記入する。
			ルール理解		□ある □ない □不明	
			興味の有無		□ある □ない □不明	
			活動への意欲の有無		□ある □ない □不明	